

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200818		
法人名	社会福祉法人 恵愛会		
事業所名	グループホーム めぐみ	ユニット名	1階
所在地	宮崎県都城市太郎坊町563-2		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成26年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも組み込んでいる「家庭的な雰囲気」で、毎日を元気に楽しく過ごして頂けるよう支援しています。また、個々に役割を持って頂き、メリハリのある生活を送って頂いています。行事に関しても、「歌唱教室」「書道教室」「ダンベル体操」と充実しています。個別での外出も、年に2回程計画をたて、行っています。また、併設で特養ホームやデイサービス等もあり、他施設との交流も盛んに行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各階ごとに全職員で話し合い、地域密着型サービスの理念を策定し、日々理念を確認し合い、実践につなげている。家族をはじめ、地域のボランティアグループによる歌唱教室、書道、ダンベル体操や小中学生の福祉体験活動など、地域とのつながりを重視し、日常的に交流を深め、安心して家庭的に暮らせるよう支援している。公民館長と共に、協働作業で菜園を作り、観察、水やり、草取り、収穫など、一連の作業を楽しみながら、日常的な外出の機会、五感刺激、心身機能の維持向上に生かしている。法人グループ内の病院との連携が強く、日ごろの健康管理から緊急時対応まで、安全、安心が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、毎朝唱和を行い、理念に基づいた介護に取り組んでいる。	地域との関わりを重視した理念を、各階ごとに全職員で話し合い、理念に沿った日々のケアを振り返って再確認し、目指すべき方向などについて、有効に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な行事(歌唱教室、ダンベル体操、書道教室)のほか、地元地区の夏祭り等にも参加し、交流を図っている。	利用者と地域社会との関係が途切れないよう、積極的に各種ボランティアや小中学生の福祉体験訪問を受け入れ、交流の機会作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時等で、認知症についての勉強会などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、委員の方達と活発な意見交換が出来る。意見は職員会議等を通して、サービスの向上に活かしている。	会議は各関係者の参加の下、定期的開催されており、ホーム独自の取組や利用者の現況等について話し合い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいるが、利用者の参加はない。	ケアの質の向上や地域に開かれた事業運営の観点から、利用者も会議に参加し、消防団員や女性巡視員(駐在所)等、広く地域の関係者等を含め、理解・啓発を促す機会としていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度相談、助言、指導を頂きながら、サービスの質の向上に努めている。	市担当者とは運営推進会議でアドバイスを受けるなど、日頃からホームの実情を電話で報告し、指導・助言を受けたり、介護認定変更等で窓口に出向くなど、協働関係にある。また、市主催の各種研修等にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束は行っていない。定期的な勉強会を行い、身体拘束の及ぼす弊害について理解を深めている。	身体拘束については、日頃から職員全員で会議等で話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組み、日々の活動の中で生かしている。玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い、虐待防止に努めている。また、入居者の状態について、常に注意を払っている。		

宮崎県都城市 グループホームめぐみ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者の中で利用はないが、研修会等に参加し、制度の理解・活用に取り組んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得を図っている。改定時は、その都度、書面・説明を行い、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に声を掛け、気軽に意見を言える雰囲気作りに努めている。意見は職員間で共有し、運営に反映している。		家族の来訪時には、積極的に情報提供を行い、なんでも気やすく言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。家族の要望で、段差解消のためにスロープを設置するなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議のほか、毎日の処遇会を通して職員の意見を聞き、反映させている。		ミーティング、職員会議、個別面談等で、意見や提案を気兼ねなく出せる関係を築き、運営やサービスの質の向上に生かしている。介助の必要な利用者に一口大のおにぎりを作り、自己摂取できるよう提案をするなど、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、職場環境の改善に努めている。また、職員のモチベーション維持の為、密にコミュニケーションを図ることを重要視している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほか、外部への研修にも積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、定期的な集まりに参加し、意見交換を図っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族から十分話を聞き、信頼関係を築いた上で、安心して入居できるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分話し合いを行い、信頼関係を築けるよう配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い(相談)の中で、ニーズを見極め、必要としているサービス提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、職員と入居者の方が一緒に取り組む姿勢を大事にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊等、いつでもできる環境を作り、家族とのつながりを大切にしている。また、苑外活動や行事等への参加の声掛けも、積極的に行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出時等に、本人・家族に馴染みの場所等を聞き、出向いたりしている。	利用者の居室に、なじみのお坊さんが来訪し家族そろって法要をされたり、地域の夏祭りに出掛けるなど、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係把握に日々努め、トラブルが起こる前に対処している(食事の席等)。また、入居者同士の時間を大切にしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談・支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意思を尊重し、本人の立場に立った考え方を行うよう努めている。		日常的な会話や関わり、アセスメントを通して、利用者の思いを探り、できる・できないを決めつけず、様々な役割を担って作業などをしてもらう中で、潜在能力を引き出す工夫や配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集のほか、入所後も、本人・家族から情報収集を行い、サービスの質の向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、毎朝の処遇会で、一人ひとりの状態を確認している。また、個々の申し送りノートを作成しており、全職員が入居者の状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議のほか、状態の変化や要望のあった際は、その都度見直しを行っている。		毎月モニタリングを実施し、定期的又は随時、介護計画を見直している。モニタリングの結果を家族に報告し、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。担当者会議やカンファレンス議事録を整備している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの記録を記入し、職員間で情報の共有を図っている。また、プランへの評価も行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の個々の状態・ニーズに応じ、柔軟に対応している。			

自己	外部	項 目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、入居者個々に応じた地域資源の活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居者・家族の意向で決定してもらっている。また、他医療機関についても受診できる体制となっている。		利用者や家族の希望するかかりつけ医・ホームの協力医と連携し、情報提供と共有を図っている。緊急時には、協力病院の対応ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・訪問看護事業所の看護師と密に連絡・相談を行い、連携が図れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とご家族の橋渡しを行い、家族に代わって医療機関と密に連絡を取り、関係作り・ケアの方針を話し合い、早期退院に向け、連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医療機関と連携し、ケアの方針を決め、チームで支援しています。		指針に基づいて話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一が図られている。医師や看護師と連携を図り、緊急時のオンコール体制を整えている。早い段階から意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取組を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身に付けるよう、定期的に研修等を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練のほか、GH単独での防災についての勉強会を行っている(消火器の使い方・設置場所等)。		消防署の指導の下、水害を想定した防災訓練を、敷地内併設施設と合同で、地域住民も参加し実施している。ホーム単独の各種災害訓練(風水害、火災、地震)は実施していない。	職員会議、運営推進会議において訓練時の課題等を話し合い、すべての利用者が安全に避難できるよう、計画的に実施することを期待したい。また、目に付く所に避難経路図や一時避難所を明示することも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という尊敬の気持ちを常に持ち、言葉かけを行っている。また、プライバシーの保護に努めている。	ミーティングやカンファレンスで意思統一を図り、利用者の誇りや自尊心を損ねることがないよう丁寧な言葉かけや対応に配慮し、プライバシー保護の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを尊重し、能力に応じた支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、利用者の方達を注意深く観察し、個々のペースに合わせた支援を提供するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた服装、また、季節に応じた服装の準備を行い、本人に決定して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、週一回(金曜日)、利用者の方と一緒に昼食作りを行っている。配膳・下膳は出来る方に関しては、ご自分でして頂いている。	利用者の決められた役割を、自ら進んで取り組めるよう声掛けを行っている。家族的な団らんの中で、食器拭きする人やハミングしながら会釈を交わす人もあり、その人の個性や機能を尊重した能力発揮の場を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量・水分摂取量をチェックし、把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員、口腔ケアを実施。出来る方はご自分でして頂いている。口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を活用し、把握に努めている。日中はトイレでの排泄に努めている。		排せつ表を活用し、利用者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。建築構造上、防火カーテンで仕切られたトイレが1か所あり、使用の際は一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を遵守しながら、細心の注意を払って排せつ支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取、トイレ時は腹部マッサージを行い、便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・時間帯は決めているが、希望時は可能な限り、個々の意思を尊重し応じている。		基本的には週3回であるが、利用者の希望や習慣を尊重し、毎日の入浴も可能である。入浴を好まない利用者には、言葉かけやタイミングに合わせて柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態に応じて、柔軟に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々のお薬手帳はいつでも見れる状態にしてある。服薬を行う際は声だし確認を行い、誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を生かし、役割を持ってもらい、張り合いのある生活を支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出時等、本人・家族の意向を聞き、外出支援に取り組んでいます。		家族の協力で霧島神宮や青島など、普段は行けない場所にも出掛けしている。公民館長の土壌作り・肥料のやり方指導の協力ですでた菜園の手入れや観察、収穫をするなど、散歩の機会も増え、五感刺激や心身の維持向上につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難な方がほとんどであるが、外出時は、本人にお金を払って頂く機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる状態である。希望時以外でも、職員が家族に電話した際は、電話で話す機会を設けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに配慮し、さりげなく季節感のある装飾品等を取り入れている。		随所に利用者の四季折々の活動写真や書画、小中学生の福祉体験のお礼の手紙などを掲示し、違和感や威圧感を感じさせないぬくもりある生活の場としている。トイレや居室も分かりやすく表示されており、適度に換気され、不快音・異臭もなく、清潔保持の配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・畳部屋を設置しており、入居者の方達が自由に過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の馴染みの物(ソファ等)を設置し、居心地良く生活できるよう工夫している。		家族の協力で仏壇を備え、なじみの家具や椅子などを持ち込み、住み慣れた自宅と違和感を感じないよう配慮された居室やひ孫の写真や作品を貼るなど、本人が落ち着いて暮らせる支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内板や居室にネームプレート(目印)を設置し、出来る限り自立した生活が出来るよう工夫している。			